

レファレンスライブラリアンはどこにいるのか

4th
ARGカフェ
2009.6.20

@smt
Presented by
nachume

レファ協ほめまくり

<http://d.hatena.ne.jp/nachume/>
「レファレンス協同データベース」の事例をピックアップして、ほめまくってます。



これまでに取り上げた事例は

100件超。レファレンスライブラリアン応援サイト。そして図書館利用者応援サイト。さらに、情報活用や調べ方のTipsも随所にちりばめられたお役立ちサイトです！

レファレンス協同データベース特別企画「例題にチャレンジ！」開催中！

2009年6月30日までレファ協ではチャレンジ企画を行っています。事務局から出される5つの例題に回答をつくり、レファレンス協同データベースに登録してみませんか。参加館所属であれば誰でも参加できます。機関名・個人名等を出す必要はありません。詳しくはレファ協事務局へ→info-crd@ndl.go.jp

みなさん、こんにちは。「レファ協ほめまくり」の nachume です。「レファレンスライブラリアンはどこにいるのか？」といきなり大きな問い合わせをしてしまってちょっと失敗したかなと思ってます。結論としては「あちこちにいるよ。たくさんいるよ」って事なんんですけど。このサイトをはじめてから2年以上経ちます。1日50~150人くらいの方が見ています。最近アクセスの多い記事は「どくだみ酒の作り方」に関する事例紹介の記事です。一番アクセスが多いのは「政治団体の収支報告書」に関する事例を紹介した記事です。検索エンジンで検索すると、レファレンス協同データベースに登録されたデータが、「ほめまくり」より下位にいるというのがちょっとどうなのかな、と思ってます。本家より目立っていいのかしら、と。でも、レファ協のデータをほめながら紹介するという主旨は、Googleでキーワード検索している人にはあまり意味のないものになっているんでしょう。情報が入手できればそれでいいのですから。こういうときに思うんです。レファレンスライブラリアンって実態として見えにくいんだけど、レファ協に登録されている3万件以上のデータの後ろには、当たり前なんですが、ライブラリアンがいるんですよね。

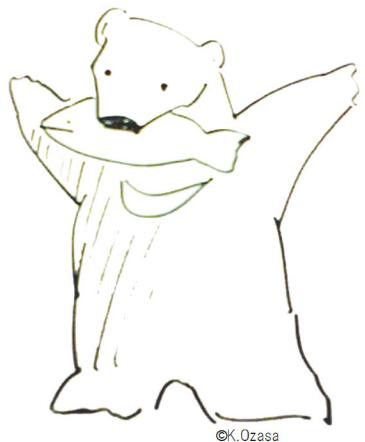
だから、あちこちにいるんですよ。レファレンスライブラリアンは、図書館の数だけいるはずなんです。たまに、「うちの図書館は貸出ししかやってないから」なんていう事を聞きますけど、大体そういう図書館って貸出しもあまり活発ではなかったりするんですけど、実際のところ、そんなことはないはずなんですね。レファレンスって何？というと、私は最近いつも「レファ協のガイドライン」を紹介しています。「あらゆる形式の記録された情報(知識)又は資料そのものにアクセスしようとする利用者に支援、助言及び指導を行う図書館サービス。支援、助言及び指導は、利用者に対する直接サービス及び間接サービスとして展開する。」ということなんです。これに携わる人はレファレンスライブラリアンなんですね。資格の有無はおいといて。小規模な館だって、なにかしらお客様さんと話をしている内に、本や情報へのアクセス支援を行っていると思いますよ。絶対。

そこに、いるんです。

ブログやってて思ってるんですが、レファレンス協同データベースのたくさんの事例の向こうにいるレファレンスライブラリアンにスポットを当てたいんです。「いやーでもさー、そもそもレファレンスサービスってどうよ？」という問いかけがしそっちゅう頭をよぎるんです。人にものを尋ねるってそういう勇気のいることですよね。質問に期待通りの回答が得られるのか未知数ですね。仲のいい友達じゃないんですから。質問する側はそれを乗り越えて質問を投げてくれるんですよ。それにきちんと応えられるぐらいになりたいと思うんです。みんなそうであってほしいんです。

レファレンスって情報源そのものを覚えておく必要は全く無くて、むしろ情報源へのアクセスをたくさん覚えておいた方がいいわけで、言ってみればたくさんの引き出しを持っている方が望ましいんです。これって、勉強しないとどうにもならないと思うんですね。長い経験があればいいやってことじゃなくて。せっかくレファレンスサービスに(限らないんですけどね)携わっているのに、レファレンスライブラリアンの底上げっていうと変かもしれないが、なんというか、ライブラリアンが「いる」んだよ、ってのをアピールしたいなあと思う今日この頃です。

レファ協は勉強のネタに最適です。ARGは様々な情報源を紹介してくれます。一人でも勉強できます。むしろ勉強は一人でするもの。でも、独りよがりになる可能性もあるんです。要はバランスかなーって。情報感度を上げるには誰かと一緒に勉強するのも悪くないかも。ということで館種を超えて集まってみませんか？ <mailto:qkmode@gmail.com>



©K.Ozasa